



神奈川支部報

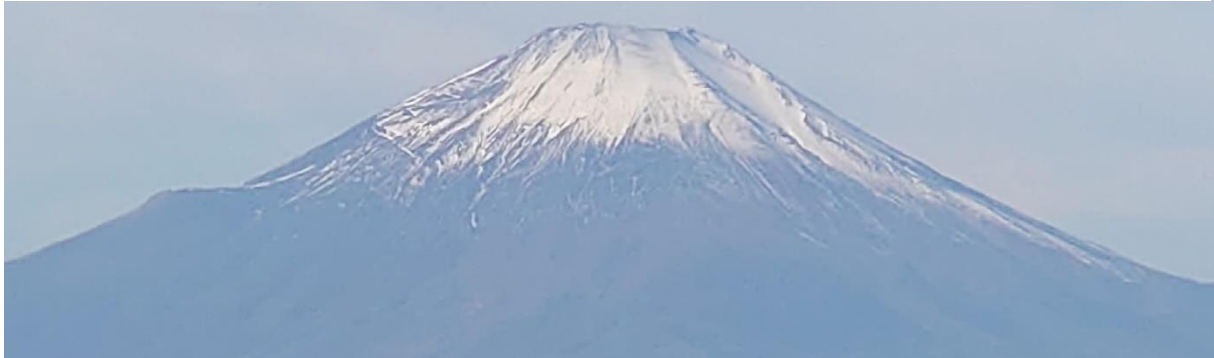
神奈川支部報 第 13 号

発行日：2020 年 1 月 1 日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



新年のご挨拶

神奈川支部長 込田伸夫

日本山岳会神奈川支部の皆様、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、会員皆様のおかげをもちまして神奈川支部も今年で創立4年目を迎えることとなりますが、私たち支部の中心行事であります神奈川山岳誌プロジェクト（7月、8月を除く第2、第4土曜日、昨年6月は丹沢表尾根で一泊の山行）は、会員皆様の御協力のもと順調に推移しております。また箱根芦ノ湖でのテント泊は、星空のもと湖畔で会員手作りのおいしい料理とお酒を楽しみながら、会員相互の懇親の場を提供できる良い機会であり、支部の年中行事的な位置づけとなりつつあります。また4月には自然観察会も横浜瀬上市民の森公園で実施され、会員による動植物、地層などについての興味深い解説を聞くことができました。昨年の全国支部懇談会は5月末に日光で開催され、多くの会員が参加して全国の会員との懇親を深めました。南関東3支部合同懇親山行は、東京多摩支部が幹事となり10月26日に奥多摩BCで行われ、旧青梅街道「奥多摩むかし道」を歩き、往時の人々に思いを馳せました。また奥多摩での懇親会では東京多摩支部、埼玉支部の会員の方々との交流を深めることができました。今年の3支部山行は神奈川支部主催となる予定ですので、会員の皆様の御協力をよろしくお願ひいたします。

新年開始早々の1月11日には山行と横浜での新年会、2月29日から3月1日は、箱根において山岳気象の第一人者、猪熊隆之氏をお迎えして山の天気についての講演会、並びに現地実習を行う予定となっています。さらに恒例行事となってきた妙高赤倉でのスキー・スノーシューツアーも2月24日～26日に予定されていて、会員経営のロッジでの温かいもてなしは、会員の親睦を大いに深めてくれます。さらに今年は現地に詳しい打矢会員の尽力により、5月29日～6月8日に神奈川支部初となる海外ツアー、米国オレゴン・ツアーを予定しています。スキー、トレッキングのほかワイナリー巡りなど、アメリカの大自然と文化を満喫できる素晴らしい旅になるものと楽しみにしております。

以上のように会員の皆様により、様々な活動が提案され実施されつつあります。「山を楽しむクラブ」を標榜する支部として、楽しくそして安全な活動を今後とも展開していく予定ですので、今年も皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

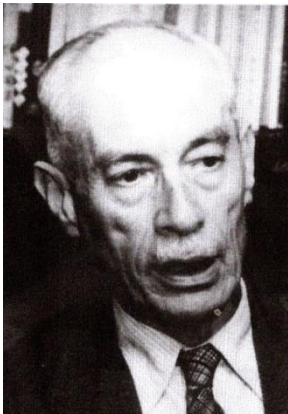
最後になりましたが、新しい年が会員の皆様にとりまして実り豊かな一年となりますことを心より祈念いたします。

丹沢おぼえがき（5）

－武田久吉、初めて丹沢山に登る－

砂田定夫

明治の後半、大抵の高峰には登山者の踏み跡が印された中で、京浜に近い丹沢の核心部にある丹沢山や蛭ヶ岳は忘れられたように登られることはなかった。丹沢山（1567m）は丹沢山地のほぼ中心にあり、平坦な円い山頂の山で、一等三角点があり、眺望は広濶である。明治以前は三境（さんさかい）と呼ばれていた。津久井、愛甲、足柄上3郡の境にあったからである。この山に注目し、最初に登山を試みたのは、前号に登場した武田久吉（写真）である。



武田は3度丹沢の核心部を目ざしたが、果たせなかった。その一つが1906（明治39）年9月の山行で、このときは蛭ヶ岳が目的だったようだ。同行したのは梅沢親光、山川（河田）黙、市川三喜の3人、与瀬駅

（現在の相模湖駅）から道志川まで歩いて上青根で一泊し、翌日神ノ川から蛭ヶ岳を目ざしたが、雨天のため中退して上野原へ戻っている。4度目にして武田は丹沢山登頂に成功した。1913（大正2）年8月のことである。パートナーは山中太三郎で、横浜在住の博物学同志会メンバー、明治38年に武田らとともに玄倉川から塔ノ岳へ登った一人である。まず曾屋に前泊する。当時は曾屋まで二宮駅から湘南軽便鉄道という馬車鉄道を利用した。案内役兼ポーターとして所という男を雇うことにした。曾屋からのルートは、西田原から三角山を経て旧ヤビツ峠（「諸戸の切通し」と呼ばれていた）を越え、門戸口、諸戸を経て札掛に入った。諸戸は愛知県三重の豪商諸戸氏がここに林業進出したところで、管理事務所があったという。札掛は武田の父、アーネスト・サトウも訪れたところ（『神奈川支部報』11号参照）であり、そのことを知っていたとしたら、武田はどんな感慨を

抱いたことだろうか。翌朝、札掛からタライゴヤ沢を少し遡って金林沢からヤブの急斜面を登り、長尾尾根（当時「八瀬尾」と呼んだらしい）を登った。何しろ8月末のこと、暑かったらしい。スズタケの間に切り分けがあったようだが、上部はトゲのある草叢に悩まされた。塔ノ岳では、孫仏岩（孫仏岩）によじ登って採集をしている。丹沢山に向かって縦走に入る。途中小平地に荷を置いて丹沢山を往復することにした。スズタケが深いところは苦勞するが、とりどりの花が咲く美しいところもあって、植物学者の武田にとっては採集に事欠かなかった。龍ヶ馬場ではよい眺めが得られ、一行の上機嫌な様子が想像できる。丹沢山に着く頃はあいにく霧が深くなって、眺望は得られなかった。広く平坦な丹沢山の頂上は、一等三角点（1885年設置）以外何もなかったが、ヤマトリカブトが咲いていたという。往路を塔ノ岳まで戻って、南面の大倉尾根を下った。当時の大倉尾根は大半が草尾根だったというから、カヤトの原が広がっていたのだろう。大倉を経て曾屋に着いたのは18時半ごろ、札掛を朝8時ごろ出発しているので、この日は10時間半ほどの行程だった。武田が残したこのような足跡は、やがて低山を趣向する登山者層を刺激し、のちに登山界に新風を呼び起こす先駆的なものだった。

（参考文献：『山岳』第8年第3号など）

「かながわ山岳誌」プロジェクトは

後半戦に！！

プロジェクトリーダー：森 武昭

神奈川支部設立を記念したイベントとして、2017年度からスタートした「かながわ山岳誌」プロジェクト（目的などは支部報第4号、2017年1月発行を参照してください）は、順調に踏査が進み、2019年11月までに、当初計画した踏査ポイント（山頂と主な峠）282箇所の56%にあたる162箇所を済ませた。山行コース数でみると、当初計画した80コースの54%にあたる43コースを完了した。まさに折り返し点を通過し、後半戦に入ったところである。これまでの参加者数は延べ380名であり、一山行あたり平均して、8.8人が参加したことになる。

実参加者数は50人であり、平均して一人あたり7.6回参加したことになり、参加者がいる程度固定化していることがうかがえる。踏査は、Hレベル（上級・中級）とLレベル（初級・ハイキング）に分けて、7・8月を除いて、それぞれ月1回で実施してきた。今まで荒天のために、中止が6回、途中で打ち切りが2回あった。幸いにケガなどのトラブルは全くなかった。これらの踏査を通して、会員同士の仲間意識が強まり、山行中や下山後の反省会を通じて、自然観察会（2019年4月20日に実施）や支部行事としてのテント泊（2018年7月、2019年5月に実施）の企画が実現する等の副次的効果も得られている。しかし、若手会員の参加がごく少数に留まっていることは残念であり、今後の課題といえる。

踏査に関しては、今後も無事故を継続できるように留意しつつ、今までと同じペースで実施することにしていく。前半戦は、比較的交通事情が良い箇所やリーダー・サブリーダーが経験してきたコースが中心であったが、残っているところは、交通事情が悪い箇所（主に北丹沢方面）、ロングコース（丹沢中核部）、藪山（箱根の南西部）など困難が予想されるコースが多数あり、これからが正念場といえる。また、2019年10月の台風19号による登山道や林道の被害状況も危惧しているところである。

さらに、最終報告書へ向けた作業も本格化する必要がある。単なる踏査報告ではなく、神奈川県山岳地域の特徴を、①地形・地質、②気象、③植生、④動物（特に山ヒル）、⑤山岳宗教、⑥山名・峠名の由来、などの観点から考察していくことにしている。一部はすでに識者に執筆依頼をしている段階である。

以上が、プロジェクトの中間報告であるが、支部会員の皆様におかれましては、踏査への積極的な参加及びプロジェクトへのご意見をいただきたく、よろしく願う次第である。

山行報告

南関東ブロック三支部合同懇親山行報告

永井泰樹

日程：令和元年10月26日（土）

山行：奥多摩むかし道ハイキングコース

参加者：当支部から込田、三木、植木（貞）、藤川、本村、永井の6名

（埼玉支部、東京多摩支部、当支部で参加者30名強）

9:20 奥多摩駅前集合

（その後、奥多摩BCへ移動）

10:00 奥多摩BC出発

11:17～11:25 不動の上滝

11:35 境集落

11:54～12:23 白髭神社（昼食）

13:02 したくら吊り橋

14:11～14:21 西久保の切り返し（小休止）

14:41～15:07 桃ヶ沢バス停（バスで引き返す）

15:20 奥多摩BC到着

16:45～18:10 懇親会

台風19号の影響で奥多摩山域は、道が崩壊する等、大打撃を受け、当初予定であった登山コース：本仁田山、ハイキングコース：日原鍾乳洞方面の両コースは中止となり、代替コースは、2コースを合体して奥多摩むかし道ハイキングとなった。

奥多摩BCを出発し、国道411号線を横断し、羽黒三田神社の前を通る。この先、続く道が昔の旧青梅街道であり、今の奥多摩むかし道とのこと。小河内ダム建設用資材の輸送用に作られた貨物線跡（橋梁やトンネル）を眺めた後、不動の上滝の見物、急斜面に民家が集まる境集落、ハンクした大岩壁に隣接した白髭神社へと進む。後半は、弁慶の腕ぬき岩、耳神様、いろは楓の巨樹、惣岳不動尊、牛頭観音、虫歯地藏などを見物しながら進んでいく。

殆どのルートが水平道で舗装してあるので、歩き易い。また、ガイド役の東京多摩支部の石井さんの説明を聞きながら、歩ける事が知識を深める上で助かった。

残念だったのは、奥多摩湖手前にて、このむかし道も崩壊し、途中の桃ヶ沢バス停までしか歩けなかったことだ。

奥多摩BCに戻ってきて、懇親会が開催された。美味しい食事、酒に舌鼓を打ちながら会員間で楽しい会話を楽しんだ。

最後にこのイベントを開催して頂きました東京多摩支部の皆様にご心より御礼申し上げます。



境集落にて（上部に廃線跡）



いろは楓の巨樹にて

かながわ山岳誌 Lコース

乳頭山、畠山

令和元年9月7日
 コース概略 東逗子駅～二子山分岐～馬頭観音～乳頭山～畠山～塚山公園～十三峠～田浦駅

三浦半島の中心にある尾根を東逗子駅を起点に乳頭山、畠山と登り田浦駅へ下るハイキングコースである。馬頭観音までは、道標が多く道迷いはないが、四等三角点のピークを巻いた後から分岐が多く、「分岐要注意」の看板が出てくる。この辺りは、葉山へ下る森戸川の源流で複雑な地形である。乳頭山は、急に盛り上がった傾斜のきつい山で、東京湾がよく見える。畠山は三等三角点があるものの、木々に囲まれたピークで眺望は悪く、あまり人が立ち入らない

場所である。一旦下り、横浜横須賀道路の横須賀IC付近を潜り、塚山公園に登る。三浦按針夫妻の大きな碑を見学し十三峠へ進む。峠がどこかわからないが、浦賀道と呼ばれた陸路の難所であると記された道標が建つ。尾根を下れば田浦駅は近い。

<参加者> 込田 伸夫、森 武昭、石村 日満子、富岡 一郎、廣島 孝子、舟根 章、高井 紀栄、稲垣 哲郎、大字 進、永井 泰樹、田島 剛、渡辺 正敏、中島 良行、葉上 徹郎、関口 由美子、野田 憲一郎、藤川 智恵子、川村 光子



乳頭山山頂

かながわ山岳誌 Hコース

矢の音

令和元年9月14日
 コース概略 藤野駅（バス）～日野～大沢ノ頭～イタドリノ頭～奈良子峠～矢ノ音～太平小屋跡～孫山（大明神山）～小孫山ノ頭～与瀬神社～相模湖駅

登山者の少ない山域であるが、登山道は整備されている。イタドリノ頭までは急登であるが、尾根に出ると心地よい風で爽やかなハイキングコースである。矢ノ音には、神奈川県自然環境センターが設置した気象観測装置がある。孫山のピークは登山道が巻いており分かり辛かったので直登した。一方、小孫山ピークも巻道ながら道標が立っており、頂上が分かった。

542.8m の孫山の表記について、国土地理院では、「孫山」。昭文社山と高原地図では「子孫山ノ頭」、高尾山登山詳細図には「孫山頭」。現地の相模原市山頂標識は、「孫山」となっており、統一されていない。本PJでは、548m ピークを「孫山」、三角点のある 928.3m を「子孫山」とした。

<参加者> 森 武昭、石村 日満子、鶴田 泰子、永井 泰樹、丸山 さかえ、葉上 徹郎、本村 光昭、関口 由美子



イタドリ沢の頭山頂



矢ノ根山頂

かながわ山岳誌 Lコース

鷹取山・クラゴ峠

令和元年 10 月 12 日
<台風の影響により中止>

かながわ山岳誌 Hコース

榛ノ木丸

令和元年 10 月 19 日
<台風の影響により中止>

かながわ山岳誌 Lコース

曾我丘陵

令和元年 11 月 9 日
コース概略 上大井駅～了義寺～おおいゆめの里～浅間山～不動山～六本松跡～一本松～高山～国府津駅

浅間山、不動山、高山を結ぶ稜線を総称して曾我丘陵と呼ぶ。上大井駅から富士見塚ハイキングコースに沿って、おおいゆめの里まで歩く。途中、鎌倉時代に創建された禅寺「了義寺」に立ち寄る。雪舟派「秋山桂月」女士の描いた竜虎、竹林図など十二枚の板戸絵が有名である。浅間山～不動山が唯一登山道らしい土道であるが、他は舗装路でゆったりと歩くことができる。六本松跡は交通の要衝であり、弓削道鏡がおったとの説明がある。近辺はミカン畑の多い耕作地帯で仕事道が錯綜しており分かりにくい。高山（国土地理院には曾我山と記載）には二等三角点があるが、ミカン畑の休耕地の中にあり、確認に時間を要した。

丘陵地帯の南側からは、小田原市街、箱根の山々、相模湾が一望できとても開放的なハイキングコースとなっている。

<参加者> 込田 伸夫、森 武昭、石村 日満子、鶴田 泰子、廣島 孝子、舟根 章、稲垣 哲郎、大字 進、田島 剛、平林 力松、渡辺 正敏、葉上 徹郎、関口 由美子



不動山山頂

かながわ山岳誌 Hコース

金剛山

令和元年11月22日
 コース概略 藤野駅～日連大橋～宝山～日連山～新和田峠～鉢岡山～新和田峠～峰～金剛山～金剛山神社～日連大橋～藤野駅

天候は雨、藤野駅から見る日連アルプスは霧雨の中であるが、相模湖に映る木々の紅葉は美しい。車道を歩き日連大橋、日連神社を過ぎ、日連アルプスハイキングコースに入る。



鉢岡山山頂

台風の影響で多少荒れた沢筋を登り急登のクサリ場を通過すると、宝山(374.2m)に至る。眺望はないが、尾根は緩く歩き易い。すぐに日連山となり、さらに新和田峠に出る。鉢岡山へピストンする。ピークには防災無線中継局と武田方の狼煙台跡がある。峰山頂は北側が開け眺

望は抜群であるが、本日は霧で見えない。金剛山頂上は平で金剛山神社が鎮座し厳かな雰囲気漂う場所である。神社から北側は急斜面の下りで慎重に降り、赤い鳥居を潜ると車道に出て、藤野駅まで戻る。

<参加者> 永井 泰樹、植木 貞一郎、田島剛、中島 良行、葉上 徹郎、本村 光昭

役員会報告

9月役員会

日時：令和元年9月19日(木)19時00分～20時40分

場所：神奈川工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、落合、田島、柴山、植木
 オブザーバー：廣島

委任状による出席：早川、大槻、長島、廣岡、青木

議事

[議事録の承認]

前回(令和元年度第4回)議事録は承認された。(資料5-1)

[報告事項]

(1) 山行報告

- ・森より、9/7に山岳誌プロジェクトLコースとして実施した東逗子駅～馬頭観音～乳頭山～畠山～十三峠～田浦駅について報告があった。参加者18名。
- ・永井より、9/14に山岳誌プロジェクトHコースとして実施した藤野駅＝日野BS～イタドリの頭～矢の音～孫山～子孫山の頭～与瀬神社～相模湖駅について報告があった。参加者8名

(2) 案内・報告

- ・落合より、神奈川県山岳連盟主催の2019年度夏山リーダー講習会の案内があった。支部会員にメールで周知することにした。
- ・永井より、南関東3支部合同懇親山行の参加申し込み状況について説

明があった。9/18 現在の参加申し込みは7名。

[審議事項]

(1) 年間スケジュール

- ・来年度の支部総会は5/30に神奈川大学で実施することにした。
- ・来年の2/29・3/1に実施する「山の天気ライブ授業」は、講師の意向を考慮して金時山で行うことにした。宿泊先は箱根の神奈川大学施設を落合に依頼した。ただし、3カ月前(今年の11月29日)でないと予約できないので、注釈をつけて早めに募集を開始することにした。具体案を次回審議することにした。定員は25名とする。

(2) 山行計画

- ・山岳誌プロジェクトのLコースとして、10/12に藤野駅～鷹取山～くらこ峠～鎌沢入口BSを実施予定。留守本部は植木と柴山に依頼。(資料5-7)
- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、10/19に橋本駅北口＝三ヶ木＝平丸～八丁坂ノ頭～榛ノ木丸～魚止橋～早戸川橋～宮ヶ瀬を実施予定。留守本部は込田、もう1名は後日メールにて依頼することにした。

(3) その他

- ・森より、かながわ山岳誌の2019年6月までの踏査状況、参加者数などの詳細な説明があった。踏査コース数・踏査ポイント数ともに約50%であった。
- ・永井より、令和元年度の本部からの交付金は、278,000円であるとの通知が来た旨の説明があった。実際の入金があったかは会計担当に要確認。
- ・支部として東京日動パートナーズと契約していた包括契約は、適用者が極めて少ないので、更新しないことにした。今後は本部が契約している包括保険を利用することにした。詳細については、担当者の長島が欠席のため次回審議することにした。
- ・落合より、神奈川県山岳連盟から、連盟への加入要請があった旨の説明があった。審議の結果、加入することを

前提として、加入することによるメリットなどを明確にすることを申し合わせた。

- ・広島より、打矢会員から提案のあったオレゴン州でのスキー・スノーシューハイキングに関して実施案の説明があった。富岡監事を窓口依頼し、なるべく早く募集開始できるように詳細を次回審議することにした。

10月役員会

日時：令和元年10月17日(木)19時00分～19時40分

場所：神奈川工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、森、落合、田島

監事：砂田

委任状による出席：早川、大槻、

永井、長島、廣岡、植木、柴山、青木

議事

[議事録の承認]

前回(令和元年度第5回)議事録は承認された。

[報告事項]

(1) 山行報告

- ・森より、10/12に山岳誌プロジェクトLコースとして実施予定だった藤野鷹取山の山行は悪天候のため中止にした旨の報告があった。

(2) 案内・報告

- ・込田より、来年の5/16・5/17に宮崎支部主管で開催する第36回全国支部懇談会について説明があった。支部単位での締切は1/31。近く支部内にアナウンスする予定。

[審議事項]

(1) 年間スケジュール

- ・今後の主なスケジュールを確認した。支部報を1月に発行するために直ちに準備に取り掛かることを確認した。

(2) 山行計画

- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、10/19に橋本駅北口＝三ヶ木＝平丸～八丁坂ノ頭～榛ノ木丸～魚止橋～早戸川橋～宮ヶ瀬を実施する予定であったが、台風の影響を考慮して中

止することにした。参加予定者と留守本部担当者へ至急周知することにした。

- ・山岳誌プロジェクトのLコースとして、11/9に相模湖＝石老山登山口BS～石老山～高塚山(136)～石老山～大明神～鼠坂～嵐山(11)～相模湖駅を実施予定。留守本部は後日メールにて依頼することにした。なお、実施に当たっては台風の影響で交通機関や登山道が問題ないか確認することにした。
- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、11/23に藤野駅～日連大橋～宝山(宝ノ峰)～日連山～鉢岡山～金剛山～秋川橋～天神峠～高倉山～天神峠～金剛山～一本松山～京塚山～弁天橋～藤野駅を実施予定。留守本部は次回決めることにした。(資料6-6)
- ・富岡より提案のあった2/24～2/26に実施予定のスキー・スノーシュー山行について、原案通り実施することが承認された。

(3) その他

- ・森より、2/29・3/1に予定している山岳気象講演会の実施案について説明があり、原案通り実施することが承認された。近く支部内で参加募集を開始することにした。

11月役員会

日時：令和元年11月21日(木)19時00分～20時20分

場所：神奈川工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、永井事務局長、大槻、早川、森、落合、植木

監事：砂田、富岡

委任状による出席：長島、柴山、田島

議事

[議事録の承認]

前回(令和元年度第6回)議事録は承認された。

[報告事項]

(1) 山行報告

- ・永井より、10/19に山岳誌プロジェクトHコースとして実施予定だった榛ノ木丸の山行は悪天候のため中止にした旨の報告があった。

- ・森より、11/9に山岳誌プロジェクトLコースとして実施した上大井駅～おおいゆめの里～浅間山～不動山～六本松峠～高山～国府津駅についての報告があった。参加者は13名。

(2) 案内・報告

- ・富岡より、2/24～2/26に実施予定のスキー・スノーシュー山行の申し込みは、現時点で8名との報告があった。

- ・本部からの要請に対応して、12/7の年次晚餐会への参加要請について、メールで周知することにした。

[審議事項]

(1) 年間スケジュール

- ・支部報を1月に発行するために準備を進めている。

- ・新年会を1月11日に横浜駅東口から徒歩5分の「香園」で開催することにした。当日は山岳誌プロジェクトLコースの山行も実施予定であり、あわせて案内募集を行うことにした。

- ・来年度の支部総会を5/30に予定していたが、5/23に変更することにした。

- ・神奈川支部のオレゴンツアーは、5/29(金)～6/8(月)に実施することを確定した。これまでに提示された案を勘案して最終案を富岡が作成し、募集を開始することにした。

(2) 山行計画

- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、11/23に藤野駅～日連大橋～日連神社～宝山(宝ノ峰)～日連山～新和田の峠～鉢岡山～田ヶ岡～新和田～峰～金剛山～秋川橋～天神峠～高倉山～天神峠～金剛山～一本松山～京塚山～弁天橋～藤野駅を実施予定。留守本部は、大槻と落合が担当。

- ・山岳誌プロジェクトのLコースとし

て、12/14に藤野駅～岩戸山～小淵山～鷹取山～沢井入口～クラコ峠～鎌沢入口＝藤野駅を実施予定。留守本部は、大槻と早川が担当。

- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、12/28に甘酒茶屋～文庫山(往復)を実施予定。なお、時間的に余裕があれば上二子山の踏査も実施予定。留守本部は次回決めることにした。
- ・山岳誌プロジェクトのLコースとして、1/11に京急三崎口＝松輪～岩堂山～大乘＝三浦海岸駅＝黄金町～野毛山～日ノ出町＝横浜駅を実施予定。下山後、新年会に合流予定。留守本部は次回決めることにした。

(3) その他

- ・森より、2/29・3/1に予定している山岳気象講演会の実施案(修正版)の説明があった。現時点での参加申し込みは15名。
- ・今後の予算の執行に関して協議した。具体案は次回以降検討することにした。

今後の予定

支部総会

令和2年度支部総会

日時：2020年5月23日(土) 13:30～19:30
(13:15受付開始)

場所：神奈川大学横浜キャンパス(部屋未定)

日程：1. 記念講演会 13:30～15:15

(1) 神奈川大学山岳部 活動報告

(2) 講演会 調整中

2. 神奈川支部総会 15:30～17:00

3. 懇親会 17:30～19:30

※4月に詳細案内予定

役員会

1月16日(木) 19時～

2月20日(木) 19時～

3月20日(木) 19時～

4月16日(木) 19時～

5月21日(木) 19時～

6月18日(木) 19時～

於：神奈川工科大学横浜事務所

山行計画

かながわ山岳誌プロジェクト

日時：1月9日(土)

場所：岩堂山・野毛山(Lコース)
終了後横浜東口で新年会

日時：1月25日(土)

場所：孫六山・鞍掛山(Hコース)

日時：2月8日(土)

場所：日向山(Lコース)

日時：2月22日(土)

場所：場所選定中(Hコース)

日時：3月14日(土)

場所：南山・松茸山(Lコース)

日時：3月28日(土)

場所：場所選定中(Hコース)

台風の影響で登山道、林道が崩壊している山があり、変更になる可能性もあります。近くなりましたらメールにてご案内いたします。

4月以降もLコース第2土曜日、Hコース第4土曜日に実施する予定です。

詳細計画については担当森武昭まで問合せください。

森武昭[Eメール]mori@he.kanagawa-it.ac.jp

赤倉スキー・スノーシュー山行

※申し込み受付終了

日時：2020年2月24日(月・休日)～26日(水)

場所：赤倉温泉

行動計画：

24日(月)：各自宿泊チェックイン、自由行動。

25日(火)：午前8時食堂集合の後、スキー班スノーシュー班に別れて終日行動。

夜、(プチ) デイナーパーティー。

26日(水)：自由行動、解散。

宿泊先：赤倉ユアーズイン
新潟県妙高市田切 219-70
電話 0255-87-2427
鉄道利用の場合は「えちごトキめき鉄道」妙高高原駅より送迎あり
注：スキー・スノーシュー等のレンタル希望の方は事前に直接ユアーズインに連絡してください。なお、スノーシューの方はスノーブーツまたは登山靴、スパッツを用意してください。

申し込み：富岡一郎

lesgamins.ina@nta.pial.jp

期 限：12月27日（金）

「山岳気象」講習会

日本山岳会会員で山岳気象予報士の猪熊隆之氏を招いて、机上と現地で「山岳気象」について分かりやすく解説していただく講演会

日時：2020年2月29日（土）～3月1日（日）

場所：神奈川大学箱根保養所

講演内容

29日（土）15:00～17:00 机上講習

天気図の見方（基礎編）、雲の種類、風の読み方、丹沢・箱根などの気象特性、気象遭難の実態、気象遭難を防ぐために（天気図の見方の応用編）

1日（日）保養所～矢倉沢峠～金時山～乙女峠～保養所

現地で天気や雲の解説講師から、雲や風、天気についての解説を受けながら山頂に向かい、頂上で観天望気の講義を受けます。

会費：8千円

定員：25名

申し込み：森 武昭

mori9620@jcom.home.ne.jp

会員番号・氏名・緊急時連絡先を明記して申し込みのこと

（注）天候などにより、計画の一部が変更になることがありますので、ご承知願います。

（注）この講演会は、公益社団法人日本山岳会本部の支部事業委員会の後援を受けて実施します。

オレゴンツアー

期間：5月29日（金）～6月8日（月）

主な活動：

- 1) スキー（残雪のゲレンデ）
- 2) トレッキング
- 3) ワイナリー巡り
- 4) ローズフェスティバル見学
- 5) その他

費用：30万円以内

現地オペレーションはオレゴン・マザマクラブ会員の CRAIG CHISHOLM 氏をホストとして打矢之威が担当、日本出国までの担当は富岡一郎

詳細は富岡一郎 lesgamins.ina@nta.pial.jp

支部会員動静

特にありませんでした。

あとがき

新しい天皇・皇后両陛下がご即位され、元号は令和となりました。「即位礼正殿の儀」には、各国元首・祝賀使節が参列され、日本の皇室の長い伝統に深い感銘を与えました。反面、台風15・19号の豪雨により、東日本は甚大な被害が起きました。神奈川県北部では、串川が氾濫し鳥屋・青山・長竹地区に土砂災害がありました。私は、約1ヶ月半復旧作業に参加しました。被災者の方には、お見舞い申し上げます。新年が、皆様にとって素晴らしい年となりますよう祈願いたします。（た）

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博

令和2年1月1日